

ふれあい・コンタクト

円山動物園ボランティア会
代表世話役 竹尾 昌己

動物と出会い、人と触れ合って心のときめきをコーディネートするために

ニュースレター

<H22年度円山動物園ボランティア総会開催される>

4月11日、今年度の総会が行われました。最初に園側主催の活動開始式で、酒井園長から「基本構想に基づき着実に進んでいる。飼育員のグループ化も4月からスタート、ボランティア会の協力で一体の活動を続け、おもてなし日本一を目指したい」とのご挨拶がありました。続いて総会が開催され、22年度の活動方針と予算が決定されました。又、新しい世話役も下記の様に選出され、全員で記念撮影を行い終了となりました。

(ワイルド班 水戸久仁子)

代表世話役 竹尾昌己 副代表世話役 米山輝子・伊藤 剛

世話役 (ふれあい班) 米山輝子・小熊 瞳

(ワイルド班) 上田得一・田中一江・鈴木文人

(クマチカ班) 竹尾昌己・飛騨野かな代・田村 哲 (やせい班) 伊藤 剛・初貝敏枝・佐藤國男



<ご挨拶=ボランティア会新代表世話役 竹尾昌己>

この度、平成 22 年度の代表世話役を仰せ付けられましたので、よろしく願い致します。ボランティア会は従来の6班体制から今年度4班体制になりました。まだまだ戸惑いを多少感じている方もいると思いますが、少しずつ慣れていって下さい。ポイントガイドにしても、従来やっていなかった解説もあると思いますが、学習して早く出来る様に期待しています。今年は特に新しい体制になったと云う事で飼育員さんとのコミュニケーションを、今まで以上にとって行きたいと思います。オオワシの野生復帰ゾーンやエゾヒグマ館等新しい施設も出来ました。又、新しい生命も誕生しました。皆さんも新しい仲間と共に、気持ち新たにガイドにイベントに頑張ってくださいと思います。これからも市民に愛されるガイドボランティアとして、楽しくやって行こうではありませんか。

<14年振りの年間入場者90万人突破！を記念>

円山初の『円山動物園感謝祭』が3月20～22日、開催されました。「もっと知りたい円山動物園」と題し、動物達を詳しく知る3日間限定のプログラムとして、クイズに答える“動物博士認定試験”や、草食動物のフンと牛乳パックを使った“ハガキ作り”ゾウの『花子』の“鼻と尾の展示”等々、普段は無い体験メニューが盛りだくさん用意されました。22日のグランドフィナーレでは酒井園長の今年度の行事を振り返っての報告や、来年度の期待の持てる話等がありました。その後、飼育員さんの担当動物や人柄を紹介、ボランティアの自己紹介等があり、最後に酒井園長の「来年度も円山動物園をよろしく願います」との発声でお開きとなりました。



(ワイルド班 水戸久仁子)

<アニマルファミリー『弟路郎の誕生会』>

1月24日、沢山のお客様が集まり開催されました。吉田飼育員より『弟路郎』は1年3ヶ月前頃からフランジが発達し始め、今では大人の貴族になった事。このフランジの成長にはメンタル面が非常に影響する為、弱いオスはいくつになっても大きくなれない。」等々のお話がありました。弟ちゃんはすっかり立派な男になってくれました。勿論可愛い可愛い『レンボー』がお嫁に来てくれたので尚更ですね。その後、お客様全員で誕生日の特別メニューを、工夫をかさねて室内展示場のいろいろな場所に隠してみましたが、ご馳走をお待ちかねの2人にはいとも簡単に発見される始末。2人との知恵比べに楽しみ、見つけられた？喜びに浸り、弟ちゃん夫妻以上にワクワクしている私たちがいました。相思相愛の『弟路郎』と『レンボー』、これからもずっとお幸せに！そして新しい家族が増えて、ますます賑やかになります様に！

(クマチカ班 木目沢麻美)



<チリモン観察会について>

1月7～9日の3日間に延べ6回のチリモン観察会を行いました。冬休み中の小学4年生から大人まで幅広く参加を呼びかけて、100名近くの方に楽しんで頂くことが出来ました。普段何気なく食べているチリメンジャコと一緒に入ってしまった海の小さな生き物たち(チリメンモンスター)に焦点をあてる活動です。実はそれぞれ意味があってそこにいた訳で、調べてみると興味が尽きない対象です。動物園で海の生き物?と疑問に思われる方も多いと思いますが、海はすべての生き物の故郷でもあります。また生き物同士は何らかの形で密接につながりを持って生きているのも事実であります。こうした事実を観察会を通じて伝えられればと思っています。これから先、ある程度定期的に関催されるようになれば私たち自身の学習にもなり、夏・冬休みの学習の助けになるかなとも考えています。(ふれあい班 山口敏孝)



<フクロギツネの『かあさん』永眠>

1月7日、フクロギツネの『かあさん』が亡くなりました。推定20歳(寿命は約10年)で人間なら100歳を超える大往生でした。1989年オーストラリアのタスマニア州観光協会と北海道観光連盟との姉妹提携の折にタスマニア政府より寄贈を受けタスマニア館(現在のカンガルー館)で飼育されていました。フクロギツネは夜行性の有袋類で顔がキツネに似ていることが名前の由来です。今までに10匹の子を産み、いつしか『かあさん』と呼ばれるようになりました。寄贈時の仲間たちも20年間の流れの間に老衰・病死・その他で数が減り『かあさん』だけになりました。飼育員に支えられ精一杯生きて「オーストラリアにはこんな動物もいるのですよ」と訴えかけるように巣箱から夜行性動物独特の目で見つめる様子が思い出されます。寂しいけれど、今まで癒しをありがとう『かあさん』安らかに・・・合掌。(ふれあい班 都築勝江)

<プラネタリウム祭り『星空動物園』>

12/13(日)20(日)、札幌市青少年科学館プラネタリウムで爬虫類担当の飼育員本田直也さんの特別講演会が行われました。当日は本田さんファンで一杯、大好評で入場できない方々も。プラネタリウムではありえないスポットライトを浴び、はっぴ姿で登場。天文系の石垣さんとのコラボレーションの始まりです。ドームには一番人気の『イコロ・キロール』の説明。次に愛犬ルーツが大写真に。星座が次々と。本田さんの誕生星座のおうし座、へびつかい座、全天で一番長いうみへび座では世界で「美しい蛇」4種類を投影。さそり座では大きい鉋のサソリは猛毒ではないと、りゅう座ではコモドドラゴンの最新情報。そしてイリオモテヤマネコを見に行った時に満天の星の中からサザンクロスを見つけたとの報告。カラスヘビと一緒に本田さんが見送りのサプライズも。今回の取材に際し科学館天文系の皆様にはご配慮を賜り有り難うございました。(ワイルド班 田中一江)



<ボランティア初年生(7期生)のつぶやき>

昨年7月、動物大好き人間の私、あこがれの円山動物園のボランティアに採用されました。諸先輩は「凄い！」方々ばかり、皆さんの知識と行動力に脱帽。「やせい班」に所属し、まずはヘビやワニ等をじっくり観察することから始めたが、は虫類館には大きなコモドオオトカゲやビルマニシキヘビのアルビノ個体など結構びっくりの展示があり、連日大賑わい。中でも生まれたばかりのヨースコウワニの赤ちゃんには「可愛い！」と大人気。私も「これはね、あれはね」と覚えたての知識を少しずつ披露。でも、子供たちから「どうして・・・?」、「何を・・・?」と聞かれると殆ど答えられない悲しい初年生。最近は園内全部を回って観察を続け、そのうち先輩諸氏のように私も!と意気込んでいるが、とにかく動物園が大好きな高齢初年生、今後もがんばりま〜す。(やせい班 佐藤國男)

<アニマルファミリー『レディの誕生会』>

2月21日、チンパンジー『レディ』4歳のお誕生会に30数名のファミリーが参加、園長挨拶に続いて飼育員祐川さんによる一年間の「トニー群」と『レディ』成長のお話がありました。『チャコ』のケガによる入院や『アッキー』の病気治療等で、『レディ』だけを専門に看られなかった事。『トニー』と『チャーボー』だけの留守番が多くなり、『トニー』にストレスを掛けている事。『テス』が『トニー』と遊びたがっているが、『トニー』の様子しだいである事。8歳になった『チャーボー』と『レディ』とが、お互いを意識し始めている事。また、『レディ』を5歳までに復帰させるには、『チャコ』『チャーボー』と仲良くなるのが大事で、暖かくなったら始めたい。」等々でした。チンパンジー館では、玩具3個と、ジャムで「レディ4歳おめでとう」と書いた果物入り雪のバースデーケーキがプレゼントされ、最後は仲間みんながおすそ分けに預かっているのを見ながら無事終了しました。(やせい班 伊藤剛)





- Q プロフィールを教えてください** **A** 20年程昔、円山動物園で臨時の飼育員を半年、その後売店も経験しました。その時に札幌市職員の試験を勧められ、採用後は調理員として給食を作っていました。円山への異動は狭き門と思っていたので内示を見て驚きました。
- Q 円山でのお仕事は?** **A** 最初は昆虫館(正直虫は苦手だったのですが…)。次に白鳥池と水鳥。子ども動物園は昨年4月からです。
- Q 子ども動物園での役割分担は?** **A** プレーリードッグとリスザルをメインで担当していますが、子ども動物園の仕事は全部できるようにしています。
- Q リスザルドームの掃除をされていましたね。** **A** 普段は水洗いで、ガラスが曇ったら磨きます。襲われることはありませんが、好奇心旺盛なので指をかじられたりメガネを取られたりします。死産など異変があると不安がって一日中まとわりつくように近寄って来ることもあります。
- Q 子どもを他の動物園に移すときはどうですか?** **A** 網で捕獲しますがみんなでドーム中を逃げ回ります。仲間を助ける様子はありません。普段オスはメスに何かしようとするので向かってきますが、この時はさすがに一緒に逃げます。
- Q 名前はつけていますか?** **A** 全部ではないですがつけていて、お父さんは『おとっち』。群れにオスは1頭だけですのでもう少し頑張ってもらいたいと思っています。メス達の受けが悪いとメスの集団にオスがやられることもあります。『おとっち』は子どもに優しく、そういうところがリスザルの世界ではモテるのかもしれませんが。リスザルのえさやり体験は子どもたちが落ち着いてからですね。
- Q プレーリードッグはどうですか?** **A** オスの『ガンガン』が亡くなったので今はオス1頭で頑張っています。去年たくさん生まれているので今年は少ないかもしれません。メスが巣穴の取り合いをしないので、3頭くらいが一箇所に固まっています。経験者に聞きながら手探りで様子を見ています。
- Q これから取り組みたいこと、将来の夢は?** **A** 羊の毛糸を紡ぐ体験やクリスマス時期に簡単な手袋とかプレゼントをしたいとも思っていました。ヒツジ・ヤギの触れ合いはしばらくお休みになるので、広場の活用を考えたり、日々の中で少しずつ工夫していくつもりです。まだ飼育員3年目ですので、いつも動物たちから教えてもらっているということをお忘れずにいたいです。
- Q 動物園の見所、お客様に知ってほしい事は?** **A** 出産や新しい動物などその時々のお見所の様なものはありますが、こちらから指摘するのではなく、見所はお客様自身に見つけていただきたいと思っています。園全体のうち一つでもポイントを見つけていただければと。
- Q こんな動物を担当したいという希望はありますか?** **A** 犬と言ったら却下されました。
- Q 来年の干支はウサギですね。触れ合いの計画は?** **A** プレミッシュジャイアントとネザーランドドワーフは繁殖させて触れ合いすることを考えるかも。エゾユキウサギは習性を考えると増やししたり、触れ合うというのは難しいですね。
- Q 仕事をしていて嬉しい事や楽しい事は?** **A** 赤ちゃんが順調に育ち、面倒がみられるのは楽しいです。どの動物でもふとした触れ合いや些細な事に毎日何かしら楽しいことがあります。
- Q ボランティアへの要望や共同でしたいことはありませんか?** **A** 子供がわーっとくる場所なので危険の無いように見守っていただきたいです。動物を追いかける子どもや自分の子どもをヤギの背に乗せようとする親やニワトリを捕獲する人などいろいろ。クジャクの羽は怒らせたら広げると思う人もいるので解説を交えて注意していただけたらと。外から草を持ってきて与える人もいますね。
- Q プライベートで飼っている動物は?** **A** 犬が数頭。主にチワワとダックスフンドです。母がペットショップに勤めていて売れなくてかわいそうな子を連れてきて増えました。家へ帰っても飼育です。ケージはありますが交互にしたり、健康のために食事面で工夫をしたりしています。
- Q ウルフフェスティバルの時に大きなぬいぐるみをお買い上げでしたが?** **A** 犬のケージの上に置いています。高額なのでちょっとやっちゃったかも…。



(ふれあい班 高橋淑子)

＜動物園の森～スノーシューを履いて＞

1月24日、曇り空の中、森のボランティアさん先導でスノーシューを履いて除雪されていない森の中へ。チビッ子達は元気よく、どンドン進みます。見慣れていた森の中とは全然違い、杉木立の緑が目立ち、あとは小鳥達の鳴き声もあまり聞けず白い世界でした。イタドリやアケボノの茎で笛を作り、子ども達は群生していたオオウバユリのドライ化した花がらを見つけては種を飛ばして遊んでいます。木々の冬芽にも動物の顔とかヒツメに見えて、思わずなるほど。楽しい一時でした。

(ワイルド班 田中一江)



<スノーフェスティバルで『ミニ雪だるま作り』>

2月6日、『ミニ雪だるま作り』のイベントが行われました。(7日は悪天候のため中止) 初体験の私は雪だるまの型を見て「意外と簡単に作れるのね」と思いましたが、これを見ると行うとは大違い! スコップでバシバシ、型に雪を詰めて、その型を地面にたたきつけて球形に整える大変な重労働でした。腰痛の持病がある私には手が出ません。カラフルなペットボトルのキャップで目と口、子供がメッセージを書けるプラスチックの手、首に巻く色とりどりのリボンも用意しました。この日は天気に恵まれ親子連れのお客様が次々と参加、あっという間に色々な雪だるまが126体も並びました。『札幌雪まつり』のついでに来園された沖縄の親子連れも大喜びでした。出来上がると早速雪だるまの前で記念撮影です。本当に可愛い作品ばかりなのでメインの通りに向けて並べたほうがもっと多くの人に見てもらえるのではと思いました。当日は他班の多くの方々のご協力により、盛況のうちに無事終わることが出来ました。本当に有り難うございました、そして皆さんお疲れ様でした。



(クマチカ班 三浦千代美)

<エゾヒグマ館裏側探険>

2月28日『エゾヒグマ館裏側探険』に参加しました。最初にエゾヒグマについて勉強。次は、いよいよ施設の見学です。施設全体が5cmのアクリルガラスを通して見る事ができます。飼育場の中の床は土。木は北海道に生育しているものだけ。「餌穴」と呼ばれるコンクリートの穴が2つ、腕だけが入る大きさで、中に置いた餌を探す様子が見られます。冬ごもり用の穴は、2畳ほどの広さ。雨やどり用のスペースと共に床暖が付いていると聞き一同驚き! どちらも外から見やすい場所にありました。餌穴に腕を入れたり、巣穴に入ったりとすっかりクマの気分。バックヤードの獣舎も見学しました。寝室から外へ続く道は、床が体重計になっています。又、ハンドルを回すと檻を狭くできるようになっており、クマを狭いスペースに追い込み、麻酔や治療をする時に使うそうです。これにはみんな興味津津。楽しいエゾヒグマ館裏側体験でした。(やせい班 加藤啓子)



=投函コーナー=



- *オトコの戦い* *尻尾で立って、蹴る!! おおっ、オタチ(ポケモン)の仲間か?! (ふれあい班 大場めぐみ)
- *見事なツートンカラーの輪?* *2匹が重なっていますが「ニシキヘビの求愛行動」だそうです。でも「オトコ同士じゃ意味がない」ってキーパーさんが言ってたヨ・・アルビノ君!! (やせい班 高瀬 哲)
- *リスザルはベビーラッシュです* *1/27現在でベビーは7匹。母親の背にしがみついて、愛くるしい目で好奇心いっぱい周囲を見回しており、お客様の人気を集めています。(ワイルド班 田中茂雄)
- *超カワイイ嫁入り* *一匹暮らしのサーバルキャット『ポッキー』の元へ、素敵なおメスがやってきました。2006年、南アフリカ生まれの4歳、応募多数の中から名前は『キキ』に決まりました。あまりの可愛さに来園者の目はクギ付けです。(ワイルド班 水戸久仁子)
- *皆さんよろしく* *4月17日にオープンした『エゾヒグマ館』の看板娘、新入りの『とわ』2歳です。皆さんどうぞ会いに来てください。(クマチカ班 山川泰弘)

編集後記

新年度が始まりました。季節もポカポカと暖くなり、思わず足取りも軽くなります。今年からボランティア会も飼育員さんの班体制に合わせて、4班体制となりました。所属の班名が変わり少々戸惑いもありますが、園との連携が益々深まり活動の場がさらに広がりそうで大いに楽しみです。様々な活動の様子等記事の投稿をお待ちしています。

(次号の原稿締め切りは7/16です)

編集スタッフ: 鳥山 要 山川泰弘 松山幸子 高橋しのぶ 小熊 睦 田中一江 星原恵子 水戸久仁子 大地 淳
田中茂雄 成田 愛 加藤啓子

編集責任者: 丹野健治 (TEL/FAX 011-232-8151) 佐藤正俊